

全酪連会報 8

2026 AUG No.731

若手後継者の本音／佐直正一さん

第77年度(令和8年度)通常総会開催される 概要

購買生産指導部だより／DMSシステム 令和7年集計結果

第53回 全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農経営発表の部

父の日に牛乳を贈ろう! 後編

日本酪農見て歩紀／那須牧場(愛媛県西予市)

酪農トピックス

第16回酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介

全酪新報ダイジェスト版

人事異動



全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから
閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>



COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>

フォローして最新情報をチェック /

全酪連

X公式アカウント

はじめました!

@zenrakuren



全国酪農業協同組合連合会

はじめに

今回ご紹介するのは、山形県東根市で酪農を営む佐直正一さん（36歳）です。所属している山形県酪農業協同組合（山口長一代表理事組合長、以下「山酪」）は、生乳出荷戸数67戸（令和8年7月時点）、年間生乳生産量は31,548t（令和7年度実績）となっています。

牧場と地域の概要

佐直さんの住む東根市は、山形県の中央東部に位置し、人口約47,000人が暮らしています。なんとといってもサクランボやリンゴ、ラ・フランスをはじめ果樹の栽培が盛んで、サクランボの生産量は全国の市町村で1位となっています。市内に空港や工業地帯が存在することから交通アクセスが良く、最近では宅地開発も盛んで、若年層を中心に人口が増加している珍しい地域です。

佐直さんの牧場は、果樹農家だった曾祖父が果樹と兼業で開業。開業時からある旧牛舎と新牛舎（築約50年）で牛を繋いで営農中。正一さ



▲ 佐直正一さん 牛と牛舎での写真

今回は、山形県東根市佐直牧場の後継者佐直正一さんにお話を伺いました。

んは4代目となります。

正一さんが生まれた頃は近隣で7件の酪農家があり、地元の任意組合『山形北部酪農組合』を形成していましたが、5年前からは東根市の酪農家は佐直牧場1件のみになりました。約2年前に『山形北部酪農組合』を解散し、山酪へ組合移動。現在に至ります。

繋留牛舎で46頭繋ぎ牛舎。圃場面積6haの畑を利用しコーンサイレージを作っています。ご両親と正一さんの3名で牧場を営んでいます。

酪農後継者として牧場に入った経緯は？

酪農家の息子として幼少期を過ごしましたが、酪農への興味は薄かったです。山形県内の普通高校に進学しましたが、高校卒業後の進路に悩んでいた時期がありました。その際にちよつとずつ牛舎作業の手伝いをするようになったのですが、牛と向き合う父親の背中を見て感銘を受け、大学で酪農を学ぶことと実家の牧場で就農することを決めました。北海道の酪農学園大学で4年間学び、卒業後の4月からそのまま実家で就農し今年で14年目です。ゼミでは農業工学専攻で、牛舎内の換気などを専門に学びました。北海道では広大な放牧地で機能的な集約放牧を体験して、実家で繋留している牛との違いを感じたのが一番印象的でした。

今、営農を思うこと、課題・問題として考えることは何ですか？

国際情勢の先行きが見えず、資材コストの価格高騰などが経営にダメージを与えています。自家の牛乳の乳成分でペナルティーが発生しないよう安定させたり、飼料設計などを見直して飼料コストを抑えたりはしておりますが、今後まだまだ値段が収まる気配がないのは率直に恐怖を感じています。飼料費を抑えるために自給飼料生産に力を入れています。この春の肥料・種子・ラップフィルムの値上がりのインパクトが大きく、何をすることも高くついているなど感じています。

山形の気候は、温暖化の影響か冬の降雪量は少なくなってきました。しかし、夏に雨が降らずに非常に暑い日が長く続くという年が続いています。今年は春から定期的に雨が降りましたが、やはり暑い夏が来る予報ということで、自給飼料の収穫量と品質が心配です。また、10年前には牛舎内の細霧装置すら無かった山形でも、ここ最近暑熱対策に頭を悩ませております。

現在所属する山酪さんでは、酪農ヘルパー事業やコントラクター事業があるのはいいなと思っています。今のところは父の意向もあり、佐直牧場で酪農ヘルパーを利用する予定はありません。

若手後継者の 本音

Vol.82



▲ 共進会での佐直さん



▲ 自慢のトラクター

〔経営概況〕

所 属 山形県酪農業協同組合（山口長一代表理事組合長）

家族構成 ご両親、正一さん

飼養頭数 繋留牛舎で46頭繋ぎ牛舎

都市化の進む街で 酪農業を続ける唯一の酪農家

ただ、この事業があるから定期的に休みを取って、日々の作業を頑張ることができる酪農家も多いと思いますし、働いてくださっているヘルパーさん達には頑張っていたきたいなと陰ながら応援しております。また、収穫機械に何かトラブルが起きた際にはコントラクター事業を使うことも想定されるので、困った際には頼りになる存在だなと感じています。

今後の課題と展望・目標は？

牧場としての目標は、自給飼料の収量を向上させることです。気候などの影響で増減するものですが、より多くのトウモロコシを収穫する必要がありますと感じています。自家で発生する堆肥を多く使い、肥料の使用量を抑えることでコストダウンをしながら、収量増加に向けての取

り組みを実施していこうと思います。

また牛群では、乳量・繁殖もどちらも伸びしろがあり、成績向上が必要だと思います。

個人としては、今後一人でも作業ができるように、作業負担を減らす取り組みが必要だと思っています。今年、「調子が悪いトラクターを新しくしたいな」とひっそり描いていた夢が実現し、畑作業の効率が上がりました。ただ今後の事を考えると、省力化のための更なる機械導入は必要だと思っています。両親ともに70歳を迎え、数年前に父が長期入院したこともありました。今でも定期的な通院があり、その日は母と2人で作業を行っています。もし両親ともに今の働き方が出来なくなると、1人で同じことをやっていくのは不可能かなと思います。具体的には、不耕起栽培のできる機械を導入して畑作業の時間の短縮と省力化、あとは搾乳作業の方でも省力化のための機械導入をしたいと考えています。

全国の若手後継者の皆さんへの一言！

全国的に酪農家戸数が減少している中でも酪農をしたいと志を持つことは非常に立派だと思います。若手後継者の皆様一人ひとりを応援していきたいと思っています。日本の酪農の未来が良くなっていくよう、ともに頑張っていきましょう！





本会は、7月30日(木)13時より、TKPガーデンシティ PREMIUM京橋(東京都中央区京橋)において、第77年度通常総会を開催し、令和7年度の事業実績、剰余金処分案、令和8年度の事業計画案などの承認を得るとともに、役員の補選を諮りました。

令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画

(単位:百万円)

科目	令和7年度実績 ①	令和8年度計画 ②	②/①対比
酪農事業	38,857	36,364	94%
〈取扱金額〉	(8,909)	(7,686)	86%
購買事業〈取扱金額〉	90,893	90,822	100%
総取扱金額	129,749	127,186	98%
	(99,802)	(98,508)	99%
事業総利益	12,541	11,682	93%
販売費用	8,307	8,469	102%
事業管理費	3,144	3,028	96%
事業利益	1,090	184	17%
事業外収益	1,772	1,380	78%
事業外費用	1,146	867	76%
経常利益	1,716	697	41%
特別利益	14	0	0%
特別損失	746	100	13%
税引前当期利益	984	597	61%

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

※()の取扱金額は、「生乳」の全国再委託販売手数料等の金額、及び当該金額を取扱金額とした合計値。

収支計画の売上高及び損益計算書の事業収益は、この金額で表記する。

本総会には来賓として、農林水産省・長井俊彦 畜産局長、農林中央金庫・爲井清文 常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議等、関係団体からもご臨席をいただきました。

総会は、本川和幸氏(大分県酪農業協同組合 代表理事組合長)を議長に選

出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第5号議案「役員の選任の件」において、役員補選を行い、新たに役員を選任しました。

(新役員については、左記のとおり)

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

新役員体制決定

本通常総会において役員の補選が行われ、下記のとおり新役員が選任されました。
また、通常総会終了後に開催された第573回理事会において、鈴木康弘理事及び高橋秀行理事が副会長理事に選任されました。



●副会長理事
鈴木 康弘
愛知県酪農農業協同組合
非常勤／昇任



●副会長理事
高橋 秀行
千葉県酪農農業協同組合連合会
非常勤／昇任



●理事
堀籠 銀寿
みやぎの酪農農業協同組合
非常勤／新任



●理事
徳丸 洋一
大山乳業農業協同組合
非常勤／新任

DMSシステム

令和7年集計結果

1 DMSシステム事業の概況

DMSシステムが運用され始めてから今年で19年目を迎えました。図1は、生産者の皆様に当事業をご利用頂いた戸数の推移です。会計ソフト「Z・R・A・B・O」をご利用頂いております。

「Z・R・A・B・O」をご利用頂いております。A・D、員外プランの件数は令和8年3月末現在で165件となりました。会計事務所に決算申告を依頼するケースも増え、AプランからC・Dプランへ移行した結果、Aプランの件数は減少となりました。酪農経営管理に有益なツールとしてご利用いただけるよう、今後もDMSを通じた支援の継続に努めて参ります。

2 令和7年の酪農経営概況

表1は、令和2年～令和7年までの牛群動態、収入、支出及び所得の推移について、Z・R・A・B・Oをご利用している農場の平均値を経産牛1頭あたりと

して示した表です。令和7年の集計農場は、前年度と同一の個人事業者および家族経営的法人経営を含む経営体95戸としています。

3 牛群動態と生産指標

経産牛1頭あたりの平均出荷乳量は9,314kgと前年より283kg増加しており、更新率および死廃率（価格が付かずに除籍された牛が平均飼養頭数に占める割合）はいずれも前年と比べて低い値となっています。

乳飼比は、生乳売上高の増加と飼料費の減少により令和3年度と同程度の水準となりました。輸入飼料価格は令和5年から横ばい推移となり、その影響を受けて1頭あたりの飼料費も概ね横ばいで推移しています。

4 総収入は主産物、副産物ともに増加

令和7年の経産牛1頭あたり総収入を大きく押し上げた要因は、副産物収

入である肉用子牛売上高（後継牛の売却金額も含む）の大幅な増加でした。前年と比べて販売頭数と販売畜種の割合（ホル雄、交雑種、黒毛和種、他）について大きな変化はありませんが、肉用子牛の平均販売単価は前年より48,579円上昇したことから市場相場が向上したことが主たる要因と言えるでしょう。また廃用牛売上高についても販売単価は前年より51,350円上昇しており肉用子牛売上高と同様の傾向であったと言えます。肉用子牛売上高及び廃用牛売上高の増加は、コロナ禍以降続く酪農を取り巻く厳しい経営環境において令和7年の所得率が過去5年で最も高くなった一番の要因と考えられます。

一方で酪農家にとつての主産物収入である生乳売上高も前年に引き続き増加しています。令和7年8月に飲用向け乳価が生乳1kgあたり約4円引き上げとなったことも部分的には影響しているものの、今回の集計結果では、1頭あたりの出荷乳量の増加が主たる要因であると言えます。生乳売上高を平均出荷乳量で除した135.7円を平均乳価として試算すると、45,903円のうち乳量の増加による上昇額は38,403円分であり、上昇幅の約84%は乳量の増加に起因していると言えるで

しょう。Z・R・A・B・Oの会計データから出荷乳量の増加要因は特定できませんが、1頭あたり出荷乳量は62%の農場で前年より増加していました。これまでの積極淘汰による平均個体乳量の引き上げなど酪農家の日々の経営努力の成果にその要因を見出すことができると考えられます。

雑収入は、価格補填収入（補給金等）と作付助成収入（水田活用交付金等）が前年より2,500円増加しているものの、一般助成収入（各種補助金）その他の雑収入が減少した結果、前年より12,157円減少しています。

5 総支出に占める固定費

令和7年の経産牛1頭あたり総支出は、1,427,171円でした。総支出も総収入と同様に前年と比べて増加傾向ですが、総支出の増加率は総収入のそれと比較して24%程度に留まっています。総支出の内訳をみると飼料費は3,582円減少しており、飼料費を除いた総支出は25,693円増加しています。また支出の科目を固定費科目と変動費科目に分類して比較した場合、固定費科目の増加が顕著でした。（※固定費科目は表1備考欄参照。）前年と比べて固定費科目の純増加額は20,

506円、変動費科目の純増加額は1,605円。

また変動費のうち前年より増加した主な科目と増加額は、(1)期首期末在庫棚卸3,533円、(2)育成振替高3,401円、(3)預託料3,328円、(4)荷造運賃手数料3,241円の順に増加しています。預託料の増加は前年より上牧頭数が増え下牧頭数は大きく減少したためと思われます。圃場関連の費用として肥料費・種苗費・農薬費の合計は

408円増でした。

飼料費以外に前年より減少した科目と減少額は、(1)素畜費7,476円、(2)廃牛売却原価4,313円でした。素畜費が減少した理由については、素畜費には種付費用に加えて当年導入した育成牛や預託戻り時の購入費が含まれておりですが、全集計農場の育成牛導入頭数が前年より72頭減少したことにより育成導入費が前年より7,526円減少したことによるものでした。また

廃牛売却原価が減少した理由については、全集計農場における経産牛の年間除売却頭数が前年比121頭減少した事や事故による出荷が減り（死廃率の低下）、計画淘汰による廃用が数値を下げた可能性があると思われます。

6 「家族所得」「酪農フリーキャッシュ」

以上のような収入・支出概況から、令和7年の収支は家族所得で190,286円／頭、酪農フリーキャッシュ

シュで288,670円／頭となり、令和6年に比べて大幅に改善しました。飼料高騰前であった令和2年と比較すると、所得では約120%増・フリーキャッシュでは概ね100%に達しました。しかし借入金償還額を差し引いたキャッシュ残は約9割に留まっており、キャッシュフローは依然として厳しい状況にあることが示されているようにも見受けられます。

現在の酪農環境は、物価高騰による設備投資の負担増、これに伴う借入額および償還額も増える傾向にあると思われます。そのため規模拡大を行い固定費の負担軽減を図ることも以前より簡単ではない環境下にあると思われます。

7 今後の見通し

令和8年決算においては、令和7年8月の乳価改定の収支への影響が全面的に反映されますが、輸入飼料の価格変動や副産物の相場変動を吸収できる経営体力のさらなる強化はこれから重視していく必要があるかと思っています。また投資においては補助金の活用にとどまらず投資の費用対効果の見極めも肝要であると言えます。

図1 DMSシステム参加農家戸数(令和8年3月末現在)

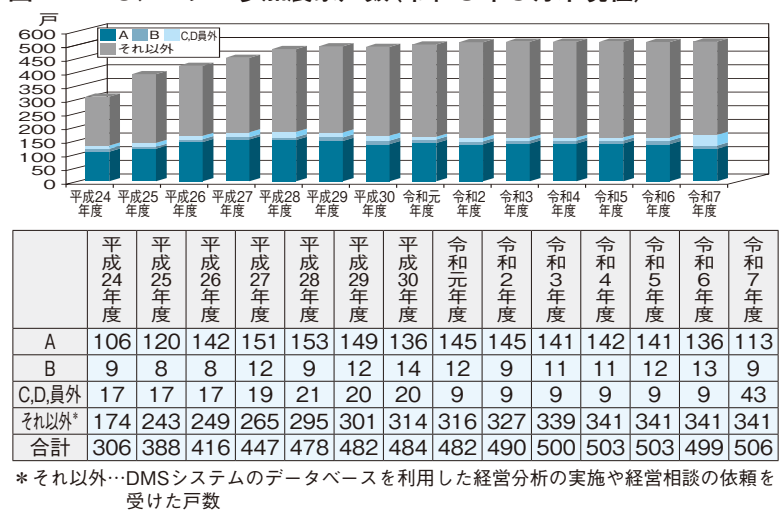


表1 酪農経営の変化 経産牛1頭当たり(円)

牛群動態/主な指標	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年差
経産牛頭数	53	54	54	46	45	44	-1頭
平均出荷乳量(kg/頭)	9,088	9,015	9,134	9,025	9,031	9,314	283kg
更新率	26.5%	26.3%	29.9%	29.0%	29.5%	26.8%	-2.7%
死廃率	9.3%	9.3%	11.6%	8.9%	10.8%	8.5%	-2.3%
乳飼比	54.2%	57.4%	63.9%	60.5%	58.9%	56.5%	-2.4%
家族所得率	12.0%	9.1%	4.5%	7.4%	7.9%	11.8%	3.9%
総収入	1,330,788	1,328,709	1,360,769	1,483,153	1,526,175	1,617,457	91,282
生乳売上高	1,027,112	1,021,257	1,038,543	1,169,327	1,218,072	1,263,975	45,903
肉用子牛売上高	136,346	132,960	112,878	78,099	90,070	144,171	54,101
廃用牛売上高	28,717	29,042	33,343	32,389	34,237	43,326	9,089
その他売上高	23,955	18,538	20,174	43,884	50,216	44,561	-5,655
雑収入	114,658	126,912	155,831	159,454	133,580	121,423	-12,157
総支出	1,170,547	1,207,248	1,299,323	1,373,370	1,405,060	1,427,171	22,111
雇人費	42,917	41,601	56,475	46,538	46,073	49,274	3,201
飼料費	552,923	580,412	663,441	707,075	717,155	713,573	-3,582
診療衛生費	31,744	32,863	35,612	37,530	38,293	39,268	975
動力光熱費	50,631	54,236	56,756	58,884	63,110	67,446	4,336
共済掛金	32,163	35,497	27,634	31,249	31,051	32,072	1,021
修繕費	40,940	42,586	36,142	43,801	44,212	47,133	2,921
支払利息	1,940	2,704	1,920	2,254	3,668	3,341	-327
減価償却費	176,869	183,563	171,881	182,858	178,223	181,563	3,340
その他経費	240,420	233,786	249,462	263,179	283,275	293,501	10,226
家族所得	160,241	121,461	61,446	109,784	121,115	190,286	69,171
酪農フリーキャッシュ	290,348	256,139	141,972	186,676	218,137	288,670	70,533
借入金償還額	64,982	67,758	84,428		85,943	84,568	-1,375
キャッシュ残	225,366	188,381	57,544		132,194	204,102	71,908
設備投資額					85,826	74,923	-10,903
新規借入額					112,523	57,839	-54,684

※いずれの年も都府県的全酪連DMS利用者を集計範囲とし、令和6年と同一95戸の集計。
 ※酪農フリーキャッシュ＝家族所得＋減価償却費＋生物売却原価＋育成振替高＋事業消費高＋棚卸差益
 ※設備投資額＝建物、建物付属設備、構築物、機械装置、車両運搬具、器具備品、一括償却資産、土地、建設仮勘定の借方計
 ※固定費＝雇人費、動力光熱費、修繕費、支払利息、減価償却費、その他費用のうち租税公課、農具費、作業用衣料費、土地改良費、地代賃借料、作業委託費、諸材料費、雑費。



第53回

全国酪農青年女性酪農 発表大会

酪農経営発表の部

7月9日(木)～10日(金)の両日、沖縄県那覇市の「ロワジールホテル那覇」において全国の酪農生産者および関係者約350人が参集し、「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。



▲全国酪農青年女性 中村委員長

まず開会式は、主催者のあいさつで始まりました。

全国酪農青年女性会議の中村委員長

長は、来賓への感謝を述べた後、『まずは、台風接近が予測されていたにもかかわらず、北海道からご当地沖縄の各地より350名の皆様がこの会場に集まっていたことに感謝する。』と述べ、

さらに『年々酪農家戸数が減少する中、生産量・消費量ともに漸減しているが、我々酪農女が先頭に立ち、酪農関係団体と一丸になり、理解醸成活動を継続していくことが消費拡大につながっていく』

酪農経営発表の部

長恒泰裕さん(西日本会議)が農林水産大臣賞を受賞!!

牧野陽太さん(北海道会議)が審査委員長特別賞を受賞!!

酪農意見・体験の部

荒井芳幸さん(関東甲信越会議)が最優秀賞を受賞!!

ものと考える。』と述べました。

引き続き、全酪連の隈部会長は、『業界の情勢は刻々と変わっている。その中で、いかにより良い経営を続けていくかを考えなければならぬ。この大会で発表を聞き、やり方を変えてみる。これで改善の糸口が見えるかもしれない。』と述べたのち、『行政や全酪連を含めた関係団体は、若い人たちが安心して経営を続けられる環境を作るため、日々皆さんと一緒に頑張っている。本日の発表から、明日からの経営に生かせるものを見つけ出し、強い経営者になっていただきたい。』と述べました。



▲ 全酪連 隈部会長

来賓の農林水産省の長井俊彦畜産局長は、大会の開催並びに参加者への祝意を表した後、『中東情勢に起因する燃料や生産資材の調達への懸念に対し、皆さまからの情報をもとに生産現場の不安解消に向けて引き続き取り組んでまいります。戸数減少や労働力不足は依然として重要な課題と捉え、省力化や外部化を進めながら新規就農や経営継承を確保しつつ、酪農業は稼げる、やりがいのある魅力的な職業だということを、業界を挙げて内外にPRしていくことが重要と考えています。引き続き皆様と一緒に生乳需給改善や酪農経営安定を図り、酪農業の魅力を高める後押しをしていこうと考えます。』（同省畜産局企画課 夏日課長 補佐、代読）と、祝辞をいただきました。

式典では、沖縄県玉城デニー知事（同県農林水産部 喜屋武部長代読）からも祝辞をいただきました。

続いて行われた酪農経営発表の部は、各会議から選出された5名

により行われ、①酪農経営の収益性、②経営の安定性・発展性、③飼養管理技術水準、④資源循環型酪農の実践、⑤食品の安全性への配慮、⑥組合・地域活動の貢献、の6つの観点から慎重に審査が行われました。発表内容は、審査委員長による審査講評にてご紹介いたします。

酪農経営発表の部

審査講評

松村一善 審査委員長

鳥取大学農学部副学部長
生命環境農学科 教授



今回発表された5名の方々は、各経営が独自の理念を持ち、「儲かる酪農」と「持続可能な経営」の両立に向けて、最新技術の導入、自給飼料の強化、地域との連携など

多角的な経営改善に取り組んでいる姿が非常に印象的であった。今年もまた審査委員一同大いに感心した次第である。

以下、発表順に審査講評を述べる。

高水準を貫く酪農経営
循環型モデルで実現する
品質と収益性
西日本酪農青年女性会議 長恒泰裕さん



2021年に経営移譲をうけ法人代表に就任。100頭以上の規模でもあえて繋ぎ牛舎を選択し、DX設備やハイブリッド換気システムを導入、個体管理と省力化を両立することで、労働効率や乳量・乳質を大幅に向上させた。精密な個体管理により、極めて高い乳量と、体細胞数10万個以下という卓越した乳質を両立させている点は、まさに全国模範である。

また、地域コントラ組合の組合長

として休耕田を活用した牧草生産を行うとともに、バイオマス発電の燃焼灰を堆肥に混ぜるなど、環境配慮と収益性を高める循環型酪農を特徴としている。

「誰でも同じように作業を行える」ことを目指したシステム導入は、従業員のモチベーション向上や、性別・経験年数を問わず作業者が変わっても経営を維持できるリスクマネジメントにもつながり、高く評価された。

経営力強化に向けた新規就農

北海道酪農青年女性会議 牧野陽太さん



一度、酪農家である実家に就農後、「労働時間が短く、長期的な高所得率・高所得額を確保する」という理想の実現を目指し、2022年に浜中町に第三者継承で新規就農。放牧

とラップサイレージを組み合わせたハイブリッドな放牧酪農を実践している。就農後わずか4年目でワンオペ体制による「驚異的な所得率」と高い労働生産性を実現している。

また、乳牛の健全性を保ち、低い事故率を達成。完全ワンオペ体制には継続性のリスクも指摘されたが、条件が揃えば高収益・低コスト経営が可能であるという事実は、労働時間が長いとされている酪農家のイメージの払拭に貢献するものであり、家族との時間を両立させる姿は新規就農者にとって大きな希望と魅力になり得る。また、そのノウハウを積極的に発信しようとする姿に感銘を受けた。



リフレッシュしながら

黒字経営を目指す

九州酪農青年女性会議 福岡寛行さん



宮崎県都城市の法人代表で、酪農家として3代目。週休1日制の導入など、家族が意欲を持ち続けられる「働き方改革」をいち早く実践し、持続可能な経営基盤を整えている。

空胎日数の短縮や繁殖性の向上を最重視し、毎月OPU・IVF（経膈採卵・体外受精）と新鮮卵移植を行い、高い受胎率と和牛副産物収入を両立させている。繁殖管理においては、移植や妊娠鑑定を学び自ら実践している。

また、大規模な耕種法人経営との連携により、農地やエコフィード等の地域資源を有効に活用しており、自身の酪農経営だけでなく、地域全体の生産力・持続可能性の向上に貢献している点が高く評価された。加え

て、データに基づく個体管理の徹底、戦略的な暑熱対策など、課題に対して的確に投資し、乳肉複合経営である強みを経営成果に結びつけている。

総合力で勝負する

～地味を地道にしっかりと～

東北酪農青年女性会議 千葉進也さん



酪農家3代目。30歳でUターン就農。経験も知識もない中でのスタートであったが、積極的に勉強会に参加して知識を得て技術向上を遂げ、所得率が高い堅実な経営を築き上げた。

前職が調理師であったこともあり食品を製造しているという意識が高く、そのことが牛舎の清潔さ等に反映されている点が印象的である。

「酪農家といえども事業者である」をモットーに、キャッシュフ

ローを重視し、償還額を乳代の10%以下に抑えた「収益に見合った投資基準」を徹底するとともに、子牛売却益は生活費に充当するという資金管理を行うことで、外的リスクに強い着実な経営を展開している。また、地域一丸での循環型酪農の実現、地域限定牛乳による消費者・生協との深い絆を大切にした「顔の見える酪農」を実践していることは、地域酪農の持続可能性を示す優れたモデルである。

就農20年目の答え合わせ

関東甲信越酪農青年女性会議 網野雄二さん



酪農家3代目。「常人なれど、奇策なれ」を掲げ、コロナ禍にあえて新牛舎建築や法人化を断行した。自動給餌機や管理ソフトの連動により、搾乳以外を1人でこなせる省力

化環境を構築した。また、長野という比較的冷涼な環境でありながら、徹底した暑熱対策に取り組むことで高い乳質や繁殖成績を維持しており、積極的な挑戦が成果に結びついている。

「法人を家族で楽しむ」という経営理念に基づき、高い生産効率と良好な繁殖成績を実現している点は非常に優秀である。また、小学生のミニバス大会「イナ・ミルクカップ」をはじめとした地域を巻き込んだイベントの企画など、酪農の魅力を外へ発信する主体的な取り組みや、飼料生産における行政・関連機関との連携により、地域における酪農のプレゼンス向上に大きく貢献している。

厳正な審査を行った結果、審査項目全般で極めて好成績をあげられた、西日本会議の長恒泰裕さんを最優秀賞と決定した。審査委員一同、総合的な経営の完成度・安定感で他を一步リードしていると高く評価した。

また、独自の取り組みと今後の発展性や経営スタイルの発信に大きな期待を込め、北海道会議の牧

野陽太さんに「審査委員長特別賞」を授与することとした。

さて、今回の5つの事例は、これまでの「輸入飼料に頼った規模拡大」による低コスト追求は限界を迎えつつあると考える。改めて、自らのコスト構造を見直し、地域や経営の環境変化に応じた次の一手を打つことが、我々すべてに求められている。

今回の発表を踏まえ、特に重要となっている点を以下の3点にまとめる。

第一に、「経営環境の変化に強く、高い所得を安定的に生み出すための自給飼料・地域資源の活用強化」である。輸入飼料価格に左右されない経営を確立するためには、自給粗飼料の生産拡大や放牧の活用、耕種農家との連携等により、生産コストを徹底的に抑制することが不可欠である。これからは、これまで以上に耕種農家を含む地域の仲間や他業種、行政・関連機関との連携を密にしていく必要がある。

第二に、「技術とデータの融合による精密な個体管理」である。最新のDX技術や、OPU・IVFなどの繁殖技術を積極的に導入し、個

体や牛群を緻密に管理することで、「乳量・乳質・繁殖成績」を高いレベルで実現させ、収益を安定させる揺るぎない基盤となると考える。

第三に、「社会に根ざした持続可能な経営モデルの構築」である。働き方改革によるQOL（生活の質）の向上はもちろんだが、消費者との交流や不耕作地の活用、移住支援などが、地域社会との繋がりを深めることが、次世代が「酪農をやりたい」と思える魅力ある産業へ進化していく道と考えられな

いだろうか。
今回の5つの発表は、まさにこうした未来への可能性が随所に溢れていた。発表者の皆さんにとどまらず、本大会に参加された皆さんのネットワークを、まずはそれぞれの地域からさらに広げていただくことを期待する。

酪農意見・体験発表
の様子は、次号に
掲載します。

父の日に 牛乳を贈ろう!

Thank you ♡

後編

今年も全国各地でキャンペーンを実施!

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳を贈ろう! キャンペーン」は、今年も父の日である6月21日(日)を中心に、全国各地で活動を展開しました。この活動は、「父と牛乳という誰もが分かりやすい語呂合わせを活用し、「父の日に大切な人に牛乳を贈ろう!」と全国的に呼びかける牛乳消費拡大活動で、平成18年から毎年全国各地で実施しています。スーパー、保育園、イベント会場など様々な場所で牛乳の試飲や搾乳イベントを行い、酪農家自らが牛乳のPRを行っている活動です。各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。



▲ 牧草ロールお絵描きコーナー



▲ 青年部搾乳体験

●山形県酪農青年女性会議

日時：6月27日

場所：ミルクランドモウモウフェスティバル
(山形県酪農協 本所特設会場)

内容：ミルメークの配布 (共進会と同時開催)

※21Pの酪農トピックスにも掲載

山形県

宮城県

●宮酪青年婦人連絡協議会

日時：6月1日

場所：秋保ヴィレジアグリエの森 (仙台市)

内容：牛乳乳製品、ミルメーク、保冷バッグの配布



●岩手中央酪農業協同組合

日時：6月7日

場所：第21回8020健康フェスタ
(岩手県歯科医師会館)

内容：牛乳、ミルメークの配布



岩手県

茨城県

●茨城県酪農青年女性会議

日時：6月2日

場所：水戸駅構内

内容：ミルメークとチラシの配布



●埼玉酪農業協同組合

日時：6月13日

場所：JA花園農産物直売所

内容：牛乳・ミルメーク配布

幼稚園にて似顔絵用紙とミルメークの配布



埼玉県

三重県

●三重県酪農業協同組合

日時：6月16日

場所：「飲んで応援! 牛乳と酪農」
(三重県庁)

内容：ミルメーク配布

※23Pの酪農トピックスにも掲載



▲ 三重テレビ放送

●愛知県酪農農業協同組合青年女性部

愛知県酪農農業協同組合青年女性部は「父の日に牛乳を贈ろうキャンペーン メッセージコンテスト」を開催いたしました。保育園児からシニア世代まで、幅広い年齢層から多くの作品が寄せられました。日頃の感謝や年老いた父親にありがたい気持ちを伝えるメッセージ、きれいなイラストやほほえましい絵など、内容は様々でしたが、どれも感謝の気持ちがこもった暖かい内容でした。6月1日には同組合の酪農センター（岡崎市）会議室で、酪農青年女性会議役員らに

よって入賞作品の選定が行われました。また、協賛団体の中部酪農青年女性会議も優秀作品を選定して、それぞれに記念の賞品が贈呈されました。



▲ 入賞作品選定の様子

●大山乳業農業協同組合青年部会・酪農女性部

日時：5月31日

場所：第24回大山まきば祭（大山まきばみるくの里）

内容：日頃で愛願いただいている消費者のみな様への感謝



と、酪農家、役職員とのふれあいを楽しんでいただくためのイベントを毎年開催。ステージイベントのほか、模擬搾乳体験、トラクター展示、ロールペイントなどのブースや、白バラ商品の試飲・試食コーナー、アイスクリーム配布などを実施。

日時：6月8日

場所：鳥取県庁

内容：お父さんを代表して知事への牛乳贈呈を実施。牛乳で乾杯をし、日ごろの支援について感謝を述べるとともに、今後も一層の支援をお願いした。



●おかやま酪農協女性部・青年部

日時：6月8日

場所：岡山県庁・JR岡山駅前



内容：岡山県知事を訪問し、安全・安心でおいしい県産牛乳・乳製品の安定供給に向けた支援を要請するとともに、県産牛乳と県産生乳を使用したヨーグルトの目録を贈呈。その後は、JR岡山駅前でリーフレットやグッズ、ミルメークを配布し、県産牛乳の消費拡大をPRした。

●広島メンバーズクラブ・広島県酪農農業協同組合・広島県牛乳普及協会

日時：6月17日

場所：広島県庁・周辺

内容：広島県知事を表敬訪問し、酪農情勢・牛乳消費拡大に向けた理解醸成活動とラジオ公開収録を実施。併せて県教育委員会教育長、農林水産局長を表敬訪問。また街頭でのミルメーク配布を実施した。



日時：6月7日

場所：壬生の花田植（広島県山県郡北広島町）

内容：北広島牛乳のPRとミルメーク配布、搾乳体験等

●愛媛県酪農経営者協議会

日時：6月18日

場所：愛媛県庁

内容：愛媛県庁を訪問し、県副知事へ県産牛乳・乳製品の贈呈をするとともに、6次産業化にお

ける取組や第3者継承の事例を当事者から紹介し、酪農情勢下における支援への感謝の意を伝えた。贈呈式終了後は、県庁ロビーにて牛模型を使った搾乳体験会を行い、来庁者に酪農を身近に感じてもらう機会とした。



●山口県酪農青年女性会議・山口県酪農乳業協会

日時：6月14日

場所：「MILK ● JAPAN in しものせき」
(ポートキッズパーク モーヴィ下関)

内容：県産牛乳・酪農のPR、牛乳試飲・牛乳パック工作、搾乳キット体験等



▲ 6月4日福岡県庁(福岡県知事表敬訪問)

●ふくおか県酪農青年女性会議・ふくおか県酪農業協同組合

日時：6月2日

場所：福岡県庁

内容：行政表敬訪問・牛乳贈呈

6月中には福岡県庁のほか、福岡市役所、朝倉市役所、筑前町役場を訪問。

●ふくおか県酪農青年女性会議・ふくおか県酪農業協同組合

日時：6月21日

場所：HAKATA牧場 ～父の日に牛乳を贈ろう～(博多駅前広場)



▲ ミルク配達ゲーム



▲ 父の日似顔絵コーナー



▲ 牛さんうちわ、帽子作り体験



▲ 牛乳・乳製品・ソフトクリーム販売

●ふくおか県酪農青年女性会議(西福岡女性部)

日時：6月15日

場所：JA糸島産直市場
伊都菜彩

内容：ミルメーク配布



●ふくおか県酪農青年女性会議

日時：6月1日

場所：道の駅くるめ

内容：牛乳・
ツール贈呈、
ミルメーク配布



●ふくおか県酪農青年女性会議・石橋ファームランド

日時：6月1日～21日

場所：ラッテビアンコ

内容：ミルメーク配布



●ふくおか県酪農青年女性会議(飯塚酪農青年部)

日時：6月18日

場所：嘉麻市役所

内容：ミルメーク
配布



●佐賀県酪農婦人部連絡協議会

日時：6月19日

場所：県内保育園

内容：ミルメーク配布、9か月にわたる県産牛乳「さが生まれ」の贈呈



●長崎県酪農青年女性会議・長崎県酪農業協同組合連合会

内容：行政表敬訪問・牛乳贈呈



▲ 6月2日 雲仙市役所(雲仙市長表敬訪問)



▲ 6月8日 長崎県庁(長崎県知事表敬訪問)



▲ 6月29日 佐世保市役所(佐世保市長表敬訪問)

●長崎県酪農青年女性会議・長崎県酪農業協同組合連合会

日時：6月7日

場所：ジャカランダフェスタ(雲仙市)

内容：牛乳・乳製品・チラシ・ミルメーク等の配布



日時：6月29日

場所：ささば五番街(佐世保市)

内容：商業施設での、牛乳・チラシ・ミルメーク等の配布

日時：6月22日

場所：「らくのうをたのしくまなぼう」(県内幼稚園)

内容：牛乳・ミルメークの配布



●熊本県酪農女性部協議会

内容：行政表敬訪問・牛乳贈呈・チーズの試食



▲ 6月19日九州農政局(農政局長表敬訪問)



▲ 6月19日熊本県庁(熊本県知事表敬訪問)



▲ 6月上旬～中旬の間に各市町村へ表敬訪問



●熊本県酪農青壮年部

6月上旬～中旬の間に各市町村や保育園、幼稚園をまわり牛乳・ツール贈呈を行い消費拡大をPR



▲ バター作り体験



▲ クイズから学ぶらくのう学校



▲ 無料試飲



▲ 搾乳体験

●熊本県酪農青壮年部・女性部協議会

日時：6月30日

場所：阿蘇ミルク牧場

●大分県酪農青年女性会議

日時：6月9日、19日

場所：大分県庁、日田市役所

内容：牛乳・乳製品贈呈



▲ 6月9日 大分県庁

日時：6月14日

場所：パークプレイス大分

内容：模擬搾乳体験、牛乳飲み比べ、シールスタンプラリー、お絵かき、クイズ、フォトコーナー、キッチンカー等



●宮崎県酪農青年女性連絡協議会他各地区協議会、青年部、女性部等

日時：6月5日

場所：宮崎県庁

内容：県知事への牛乳・乳製品の贈呈

6月中には宮崎県庁のほか、各市町村役場、JA地区本部等約20か所を訪問し牛乳の贈呈を行い県産牛乳と消費拡大をPRした。



▲ 6月5日 宮崎県庁表敬訪問

●鹿児島県酪農青壮年女性会議（種子島地区青年部・女性部）

日時：6月9日

場所：県内保育園

内容：牛乳・ミルメークの贈呈



●鹿児島県酪農青壮年女性会議（志布志地区青壮年女性部）

日時：6月20日

場所：道の駅 すえよし

内容：商業施設での、牛乳・チラシ・ミルメーク等の配布



●鹿児島県酪農青壮年女性会議・大隅支所青年女性会議・志布志地区青壮年女性部・種子島酪農青壮年部・女性部

日時：6月12日

場所：鹿児島県庁

内容：行政表敬訪問・牛乳贈呈

6月中には鹿児島県庁のほか、鹿屋市役所、中種子町役場、南種子町役場、東串良町役場を訪問。



▲ 6月12日 鹿児島県庁

●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

日時：6月17日

場所：沖縄県庁

内容：知事へ県産牛乳の贈呈牛乳・ツールの贈呈



日時：6月20日

場所：イオン南風原店

内容：県産牛乳の試飲、搾乳体験、似顔絵作成、ミルメーク配布



見えて来紀

No. 398

那須牧場

愛媛県西予市

牛も自給飼料も丁寧に管理
地域に密着した酪農経営

地域の紹介

今回、ご紹介するのは、愛媛県は西予市の那須牧場です。

「シルクとミルクの町」と呼ばれる西予市野村町では、古くから養蚕と酪農で栄えてきました。中心部を一級河川「肱川」が流れ、標高1,400mの四国カルストを含む急峻な山々に囲まれた、大変自然豊かな地域です。

ここでは相撲の取組も活発で、年に1回、大相撲九州場所終了後、2日間に渡り、招待された大相撲の関取及び幕下以下の力士、小学校から大学、実業団までの選手を集めて「乙亥相撲」が開催されます。幕下以下のプロ力士と、社会人大会や学生相撲などで優勝経験のあるアマチュア選手らによる取組があり、相撲においてプロとアマが直接対戦する唯一の大会です。

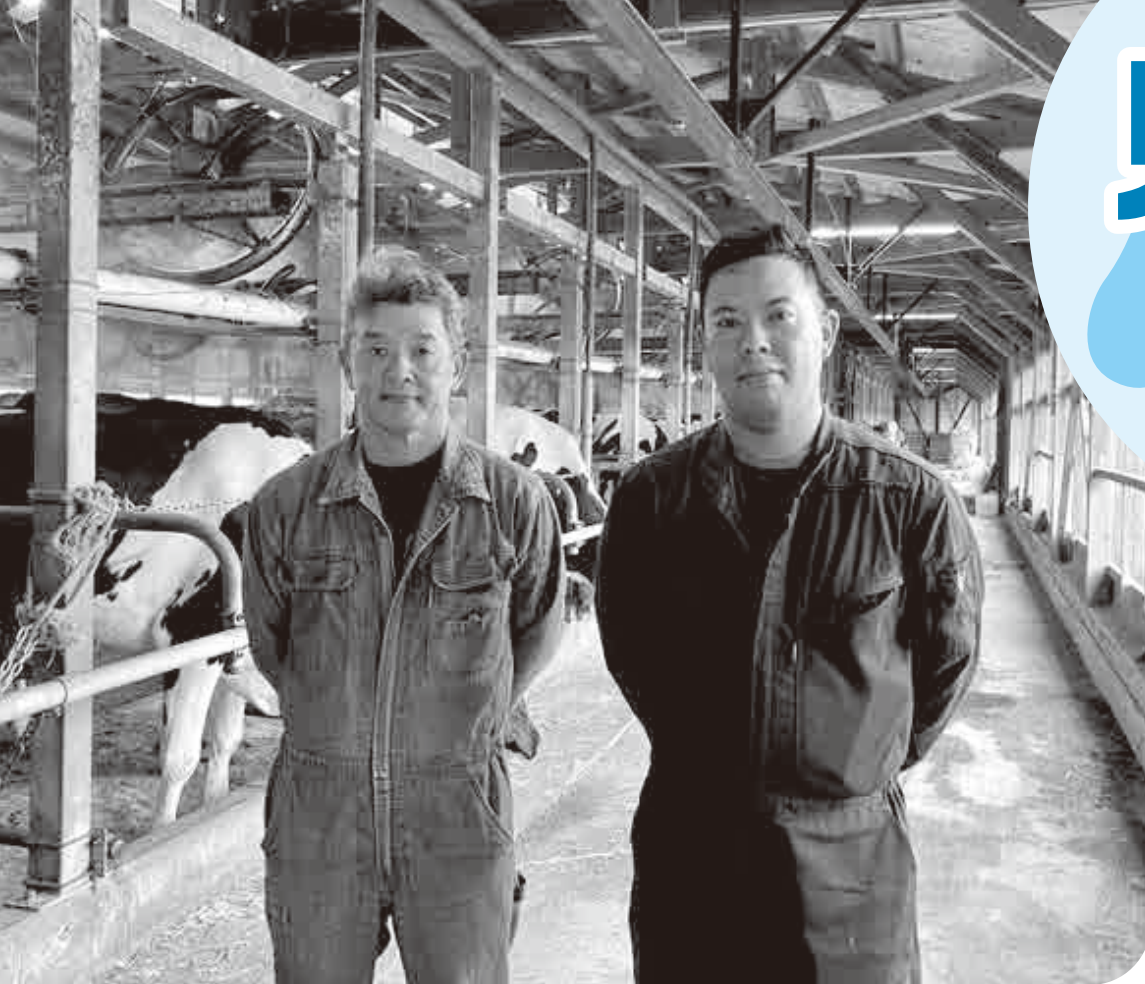
牧場の紹介

那須牧場が所属する愛媛県酪農業協同組合連合会（三瀬寿登代表理事会長）では、生乳出荷戸数58戸（令和8年4月1日時点）、出荷乳量は23,307.2t（令和7年度）となっています。

那須牧場は那須秀樹さんと、後継者の那須俊紀さんの2名で現在経産牛56頭、育成牛18頭を飼養しています。令和7年度における生乳出荷実績は550.4tで、乳脂肪率4.03%、無脂固形分率8.92%、体細胞数3万と細菌数9万は常にAランクと、安定した良質乳を生産されています。

また、5haの圃場では、デントコーンの作付をおこなっています。

俊紀さんは2019年に酪農学園大学を卒業後、北海道宗谷郡猿払村で2年間ヘルパーに従事され、その



後、令和2年に実家の牧場に就農しました。

就農当時は乳牛15頭ほどでしたが、俊紀さんの就農を機に牛舎の更新・規模拡大を決意され、令和4年4月より新しく建てた牛舎での搾乳がスタートしました。導入はせず、自家育成にこだわりの、3～4年かけて搾乳頭数を50頭まで増やしました。

経営するにあたっての方針

飼養管理面では、特に乳質には気を付けられています。一定の手順での規律ある搾乳を心掛けて、検定結果、検査成績表、搾乳時の感触には特に注意を払われているそうです。異常が確認された際には早期発見、早期治療を施し、ダメージを最小限にとどめます。

繁殖面では、給与する飼料の栄養成分コントロール、品質に気を配り、給与飼料のブレによる牛群の調子のブレがないように保っています。俊紀さん、秀樹さんの双方でAIを実施しており、ETは獣医師に一任。受精卵は近隣の繁殖農家、畜産研究センターより購入し3か月飼育した後、家畜市場へ出されます。AI、ETの受胎状況が悪い場合

給与体系

には、給与する飼料を微調整するほか、繁殖検診にて子宮の状態の確認などを行われるそうです。発情が分かりにくい個体は、獣医師に相談し迅速に対処してきました。

牛舎内には、自動給餌機（マックスフイダー）を設置しており、朝夕にミキサーで作製された粗飼料をミックスしたものが7



回／日給与されています。使用飼料は道産チモシー、アルファルファ、オーツ、ビール粕、デントコーンサイレージ、ビートパルプです。この道産チモシーは猿払村でヘルパーに就いていたころの伝手で仕入れており、国産自給飼料利用によって経費削減をかなえているようです。



地域とのつながり

青年部の活動の一環で、牛乳販売運動に参加しています。イベントや地域で開かれるマルシェ、産業まつりの際にブースを出し、消費者との交流の場を開いたり、地元で開かれ

今後の目標

「近隣の空いた畑を利用するなど、朝霧マラソンでの牛乳協賛を行うなど、精力的に地域との繋がりを作られています。」

「近隣の空いた畑を利用するなど、で畑面積を拡大し、そして自給飼料

を増収したい。その上で、現状の頭数と乳質を維持して、獣医師との連携を強化し、より精密に牛群をコントロールしたい。現状できることや工夫できることはすべてやって、作業効率を上げ収益向上を図っていきたい」と、限られた労働力や現状の施設の中で、基本を忠実に順守し経営をする展望をお話してくださいました。

また、「酪農を志す、若い人がもっと増えてほしい。また、消費者が牛乳を手に入る機会がさらに増えることを強く望みます。そのために何ができるかわからないが、これからも地域とのつながりを持って酪農に臨みたい」ともおっしゃられました。

終わりに

この度はご多忙の中、快く取材に



協力していただき、ありがとうございました。

乳質や繁殖面、自給飼料など、堅実かつ丁寧な管理されており、地域とのつながりも大事にされていると強く感じました。

今後の那須牧場のますますのご発展に期待しております。

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和8年度定時総会」並びに「カスタマーハラスメント研修」 を開催いたしました

酪農部が事務受託する、全国農協乳業協会（会長：濱名靖 様名酪農業協同組合連合会 代表理事専務）において、令和8年度定時総会並びにカスタマーハラスメント研修を開催いたしました。

令和8年度定時総会は、令和8年6月11日にKKRホテル東京にて開催いたしました。冒頭、厚生労働省 健康・生活衛生局 監視安全課課長 今川正紀様並びに、農林水産省畜産局 牛乳乳製品課課長補佐 白尾紘司様よりご来賓の祝辞を頂戴いたしました。その後、第一号議案「令和7年度事業報告書・決算書承認」、第2号議案「会則の改定について」、第3号議案「監事の補欠選任に係る件について」協議し、原案通り承認がされました。

総会後に開催いたしました役員会において、新たに大山乳業農業協同組合の徳丸洋一代表理事組合長が副会長に就任し、また新規会員としてサツラク農業協同組合、北海道日高乳業株式会社、株式会社北海道酪農公社の入会が承認されました。令和8年5月に奥羽乳業株式会社も入会したため、総会員数39社となりました。引き続き酪農家に近い乳業メーカーが集ま

る団体として、皆様の負託に応えるべく事業推進してまいります。

また、令和8年7月8日に全国農協乳業協会会員職員向けの研修「カスタマーハラスメント研修」を（株）インソースの講師を招聘し開催いたしました。本研修は、毎年「クレーム対応研修」として実施していましたが、令和8年10月より企業における「カスタマーハラスメント対策義務化」を前に、テーマを絞って開催をいたしました。研修会の中では、カスタマーハラスメントの種類や、それぞれの適切な対処法について講師の経験も踏まえながら解説がされました。受講生からは、各社で実際にあったカスタマーハラスメントの事例から、講師へ対処方法の質問が出された他、「自社のカスタマーハラスメント対策の体制がまだ整っていない現状を認識した。今後は対応マニュアルの作成や、電話内容の録音機能を導入するなどの対策が必要だ」といった声が聞かれました。

カスタマーハラスメントへの対応は、会社として大切な職員を守るために不可欠なものであると、再認識する研修となりました。（A.Y）



来賓挨拶風景 ▲▶



◀ 総会風景



▲ 研修会風景

酪農部
発

【開催報告】 大盛況！「らくのうマルシェ号」がやってきた！

新緑の風が心地よい5月～6月にかけて、全18日間にわたり開催された「らくのうマルシェ号」の特別出店イベント。おかげさまで、連日たくさんのお客様にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じました！

今回は、会場を美味しい笑顔でいっぱいにしたイベントの様子をお届けします。

●看板メニューが大人気

コク深くすっきりとした味わいのバニラアイス、

一口食べて思わず「美味しい！」と笑顔がこぼれる瞬間が、会場のあちこちで見られました。アイスディッシャーでスクープして販売するアイスは18日間で合計400個の販売を行いました。

お客様から直接「美味しい！」の声を聞き、嬉しそうに商品を手にする姿を間近で見られたことは、私たちにとってかけがえのない宝物です。お越しいただいた皆さま、本当にありがとうございました！（M.N）



仙 台
支所発

「ホルスタイン共進会」& 「山形 ミルクランド モウモウフェスティバル」 を開催！

山形県酪農業協同組合（山口長一代表理事組合長）は令和8年6月27日(土)、第33回山形県酪農業協同組合ホルスタイン共進会並びに山形ミルクランドモウモウフェスティバルを開催しました。

共進会開催と共に一般消費者への理解を深める目的で当フェスティバルを開催しています。会場内では農機具展示や搾乳体験、キッチンカーの出店などが行

われ、酪農関係者のみならず多くの一般参加者が訪れ、例年以上の賑わいを見せました。

当日は天候にも恵まれ、絶好のイベント日和となりました。共進会を通じて酪農技術の向上を確認するとともに、フェスティバルを通じて地域住民との交流を深める、非常に活気ある一日となりました。関係者の皆様、大変お疲れ様でした。（Y.O）



▲ 車両展示コーナー



▲ 閉会后集合写真

札幌
支所発都府県・道内の情報交換活発に
「令和8年度 畜産主任者会議」

7月17日(金)本会札幌支所主催、令和8年度北海道・都府県畜産主任者会議を開催し、道内と都府県の乳牛購買の担当者他63名にご出席いただきました。

本会畜産事業説明に続き、都府県並びに北海道による意見交換が行われました。経営課題である搾乳牛の確保のため導入需要はあるものの、都府県においては道内初妊牛価格高騰による導入見送りや輸送コストの上昇から地域により県内流通を進めているとの報告がありました。一方の北海道からは素牛生産コストが高騰していることから初妊牛価格は高止まりしているが、都府県が求める乳牛資源の提供に努めるとの意見もあり、また全国的に和牛子牛の生産が拡大しているなど各地の現状について情報が共有されました。また、近年の猛暑を受け北海道でも暑熱が深刻化している中、どのような対策を実施しているか、スリック遺伝子（耐暑性遺伝子）を持つ種雄牛や精液の活用状況に関する質問が上がり、活発な意見交換となりました。

続いて行われた講演会では、帯広畜産大学 原虫病

研究センターの横山直明教授より、「マダニが媒介する牛小型ピロプラズマ症」について、増体や繁殖に大きな悪影響を及ぼすメカニズムや、治療薬の製造中止に伴う予防の徹底の重要性、今できる予防法についてご講演をいただきました。参加者は熱心に聴講し、北海道の対策の現状や野生動物への対策についての質問が上がりました。

閉会の挨拶に立った本会理事である本別町農業協同組合 佐野政利組合長は、「牛の取引は単なる売買ではなく、生産技術や品質、お互いの信頼によって支えられており、安心して導入いただける牛を送り出すことが何より大切だと考えている。（ご自身の所属する）本別町農協では長年にわたり府県への預託牛供給を続け多くの皆様からご評価をいただいていた。こうした信頼を今後も大切にしながら、酪農を取り巻くさまざまな課題に対して、北海道と府県が力を合わせ、情報を共有し、協力しながら乗り越えていきたい。」と呼びかけ、会を締めくくりました。（T.H）



▲意見交換では
現状の報告並びに
質問が多数あがった



▲横山氏による講演の様子

名古屋
支所発

「飲んで応援！牛乳と酪農」三重県で牛乳配布

三重県酪農農業協同組合（近藤貞和代表理事組合長）は県と合同で、6月の「牛乳月間」に合わせた消費拡大イベント「飲んで応援！牛乳と酪農」を三重県庁内県民ホールで開催いたしました。県内酪農家が生乳を出荷する乳業メーカー各社の牛乳約300人分を県民に配布し、牛乳の消費拡大と酪農への理解醸成を呼びかけました。会場では酪農家と消費者が直接交

流する機会も設けられ、参加した酪農家からは、中東情勢の影響による資材価格の高騰など厳しい経営環境についても説明が行われ、酪農を取り巻く現状への理解を求めました。当日は三重テレビによる取材も行われ、イベントの様子や酪農家の思いが広く紹介されました。（Y.I）



原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0014

仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館 4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル 3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル 6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル 7階
tel. 092-431-8111

酪農いまいきフォトコンテスト

入賞作品紹介

酪農家の皆様より応募いただいた29点の中から、第53回全国酪農青年女性酪農発表大会の参加者の皆様による投票で入賞作品を6点選出させていただきましたのでご紹介します。

たくさんのご応募、ご協力ありがとうございました。



ここは美術館？

西日本酪農青年女性会議
おかやま酪農協同組合
筒井智子氏

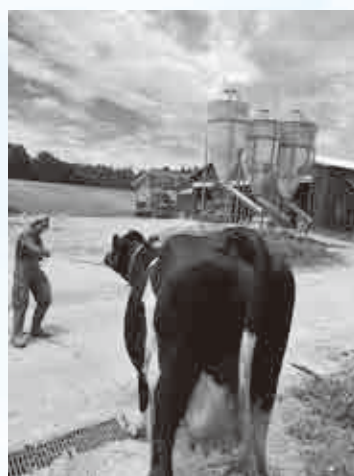
特選

入賞



共進会のヘアスタイリスト

東北酪農青年女性会議
みやぎの酪農協同組合
高橋駿太氏



歩いて下さい

東北酪農青年女性会議
みやぎの酪農協同組合
阿部由紀子氏



青草サイコー！

関東甲信越酪農青年女性会議
酪農とちぎ農業協同組合
小森美佳氏



おはよ

西日本酪農青年女性会議
山口県酪農協同組合
加賀春花氏



牛を追う少女

北海道酪農青年女性会議
足寄町農業協同組合
渡辺耕平氏

ZENRAKU Summer Gift 2026

取扱期間 2026年 6月15日 ~ 8月31日 ※一部商品のぞく。

全酪乳製品セットA

税込**4,212円** (本体3,900円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター(加塩)200g:各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入付

全酪乳製品セットB

税込**5,940円** (本体5,500円)



内容：とろけるスライスチーズ126g/スライスチーズ126g/スモークチーズ120g/6Pチーズ108g/全酪ゴーダ125g/酪農家ぬるチーズスプレッド80g/酪農家バター(加塩)200g/全酪パウダーチーズ70g:各1個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入付

全酪 牛飼いのバター5個セット

税込**4,860円** (本体4,500円)



内容：牛飼いのバター(加塩) 200g×5個
アレルギー物質：乳

冷蔵 簡易 短冊 名入付

その他にもたくさんの商品をご用意しております。
ぜひオンラインショップにてご確認ください！

ご注文方法

全酪連ギフトオンラインショップ
(<https://zenrakuren.stores.jp/>)



取扱上のご注意

1. 配送地区に制限のある場合もありますので、ご確認ください。なお、離島につきましては原則として配達できませんので、予めご了承ください。
2. お申込後のご返品、お取り消し(お届け先様ご不在、ご移転ご転居、受け取り拒否等による)扱いはいたしませんので予めご承知おきください。
3. お届け先様のご不在における取扱は、配送業者の取扱規定により対応します。
4. 掲載商品の価格には消費税及び配送料が含まれております。
5. 詰合せ内容・商品デザイン及び配列については、お断りなく一部変更する場合があります。
6. 商品は十分にご用意しておりますが、在庫がなくなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。
7. **冷凍** **冷蔵** マークの付いている商品はそれぞれ冷凍、冷蔵でのお届けになります。
8. **簡易** **全** マークの付いている商品はそれぞれ簡易包装、全包装となります。また、表示のない商品には包装はありません。(簡易包装とは、包装紙を帯状に商品に巻きつけた包装形態のことです。)
9. **短冊** **短冊** マークの付いている商品はそれぞれ普通サイズ、短冊サイズの熨斗となります。
10. **名入付** マークの付いている商品は熨斗の表書きにご指定の文字が入られます。商品によりスペースが異なり、全ての文字を入れられないこともございます。ご了承ください。
11. **お中元** マークの付いている商品は熨斗の表書きがお中元のみとなります。

全酪乳農業協同組合連合会

●本所 酪農部
●札幌支所
●仙台支所
●名古屋支所
●大阪支所
●福岡支所

〒151-0053
〒060-0003
〒980-0014
〒460-0008
〒532-0011
〒812-0016

東京都渋谷区代々木 1-37-2 酪農会館
札幌市中央区北 3 条西 7-1 酪農センター
仙台市青葉区本町 2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8F
名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル 3F
大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル 6F
福岡市博多区博多駅南 1-2-15 事務機ビル 7F

TEL 03-5931-8008
TEL 011-241-0765
TEL 022-221-5381
TEL 052-209-5611
TEL 06-6305-4196
TEL 092-432-2121

FAX 03-5931-8025
FAX 011-241-0769
FAX 022-221-5384
FAX 052-209-5614
FAX 06-6305-4899
FAX 092-431-6313



Jミルク特別事業・緊急対策

生産者・乳業者一体で脱粉過剰在庫解消へ
30銭拠出がクロスコンプライアンス要件に

Jミルクは現在、クロスコンプライアンスの要件となる生産者からキロ15銭の拠出を財源に実施中の脱脂粉乳在庫削減対策（酪農乳業需給変動対策特別事業Ⅱ基金）について、さらにキロ15銭を追加し計キロ30銭の拠出を求める。令和8年10月から令和10年3月までの1年半、緊急対策として実施する。今後、周知に努めるとともに、全国協調、または各地域での入口・出口対策を合わせて進め、脱粉の需給ギャップ（生乳換算約30万トン）の解消を図る。

現行基金は、「生産者・乳業者ともキロ15銭（乳業者は任意で最大20銭）」の拠出で事業を運用している一方、現在の基金規模では需給

ギャップのうち、約15万トンと半程度しか対応出来ていない。

このため、特に基金への拠出については「令和8年10月から令和10年3月まで」の期間を緊急対策金とし、現行のキロ15銭にさらに15銭追加（生産者は計キロ30銭に）拠出し基金とする。

これに伴い、生産者については、キロ30銭の拠出が生乳需給安定クロスコンプライアンス（主要な酪農関係の補助金等の交付を受ける場合に、全国的な生乳需給安定のための取り組みに対して拠出していること等を要件とする措置）の要件となる。

記者会見でJミルクの渡辺裕一郎専務は「今の状況を放置していくと、

需給環境の悪化により酪農家の手取りに影響する可能性がある。そうならないよう負担をお願いするわけだ

Jミルク需給見通し

生乳生産・牛乳消費とも減少見込む
需要期生産、需要拡大の取り組み必要

Jミルクがこのほど公表した需給見通しによると、令和8年度の全国の生乳生産量は前年度比1・2％減の731万トン。個体乳量増加等を背景に、1月の見通しより0・6ポイント上方修正したが、依然前年度を下回る予測。一方、牛乳消費量は前年を下回り、依然低調に推移する見通し（表参照）。渡辺裕一郎専務は当面の課題と対応について「引き続き需要拡大や脱粉在庫対策をはじめ、適切な暑熱対策の実施など需要期における対応にも取り組んでいく必要がある」と述べた。

生乳生産量のうち、北海道は0・6％減の427万7千トンで、年内は概ね1％減で推移する見込み。ただし、夏以降は乳用雌牛の2歳以上頭数が令和7年度実績まで回復していくとみられ、令和9年1月以降は前年を上回って推移する見通し。

●令和8年度の牛乳等生産量（見通し）

（千kl）

	牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	245	98.1%	11	98.0%	15	88.7%	81	98.2%	89	99.4%
5月	257	97.6%	11	98.1%	16	90.5%	84	98.6%	92	99.0%
6月	262	98.9%	11	97.0%	15	89.6%	83	98.2%	90	101.5%
7月	259	98.1%	11	96.7%	17	91.8%	88	95.3%	91	100.1%
8月	244	99.2%	11	98.2%	17	94.4%	91	99.6%	88	102.0%
9月	267	99.2%	11	97.9%	16	93.7%	87	99.0%	88	101.9%
10月	267	100.0%	12	99.6%	16	92.2%	86	98.7%	89	100.7%
11月	250	99.8%	13	98.6%	14	88.5%	74	98.8%	83	99.1%
12月	242	99.3%	13	97.9%	13	87.4%	72	98.3%	81	97.7%
1月	245	98.5%	13	98.9%	14	87.8%	73	98.1%	85	99.7%
2月	230	100.1%	11	98.1%	13	91.7%	66	97.7%	81	99.6%
3月	242	100.0%	12	98.3%	14	92.3%	76	98.7%	92	102.2%
上期	1,533	98.5%	67	97.7%	95	91.5%	514	98.1%	538	100.6%
下期	1,475	99.6%	73	98.6%	84	90.0%	447	98.4%	512	99.9%
年度計	3,008	99.1%	139	98.1%	179	90.8%	961	98.3%	1,049	100.3%

が、懸念される悪影響を回避していくというメリット面を丁寧に説明していきたい」と話した。（6月20日号）

下期の生乳生産はほぼ前年度並みと予測している。

一方、都府県は1・9%減の303万3千トン。1年間を通じて2歳以上の頭数が前年を下回る予測から、概ね1〜3%減で推移する見通し。需要面では、牛乳生産量は0・

9%減の300万8千キロリットルで、前回見通しより0・2ポイント下方修正。そのほか、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料は減少するが、はつ酵乳は0・3%増の104万9千キロリットルで、3年連続の増加見込み。(6月20日号)

改正家畜伝染病予防法

ランピースキン病、法定伝染病に格上げ 7月より法的強制力持つ対応可能に

7月1日より、ランピースキン病(lumpy skin disease)が法定伝染病へ格上げされた。5月19日に公布さ

れた改正家畜伝染病予防法に基づくもの。これにより、発生時の速やかな患畜等の隔離や移動制限、殺処分など、法的強制力を持った総合的な対応が可能となった。農水省動物衛生課は「早期発見・対応が、拡げないための一番のカギ。毎日の観察で少しでも違和感があれば、すぐに獣医師や家畜保健衛生所に連絡してほしい」としている。

ランピースキン病は令和6年11月に福岡県で初めて確認され、以降、熊本県においても発生したが、関係

者の防疫対策により、同年12月26日の事例を最後に、国内での発生は報告されてない。

当時は家畜伝染病予防法上、ランピースキン病は届出伝染病だったことから、まん延防止対策などに法的拘束力がなく、疾病発生時においては十分なまん延防止措置を行うことが出来なかった。こうした状況を受け、昨年7月に政令を施行。1年限りの時限措置として、法定伝染病並みの対応を講じることが可能としていた。

そして今回の改正・施行により、ランピースキン病を法定伝染病に追加。患畜(ウイルス分離検査により

ウイルスが分離された牛)、疑似患畜(遺伝子検出検査で陽性となった牛)が都道府県知事の判断で殺処分できることや、殺処分した死体の焼却等を義務付けた。殺処分にあたっては、患畜には評価額の3分の1、疑似患畜には評価額の5分の4が手当金として交付される。

家畜の所有者等に対しては、ランピースキン病を疑う症状を呈している牛の発見時、獣医師や管内の家保へ早期に通報するよう求めている。現場で対応すべき内容については、従来の必要な対応と大きな変更

発生農場におけるまん延防止措置

- ① 牛等の検査等(家畜防疫員)
- ② 患畜等の速やかな隔離(患畜の所有者)
- ③ 畜舎の消毒・ベクター対策(同)
- ④ 殺処分命令(都道府県知事)
- ⑤ 汚染物品の処理(患畜の所有者)
- ⑥ 患畜の同居牛等の徹底した健康観察(同)
- ⑦ 移動及び出荷の制限等(都道府県知事)

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族で愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円(税込・送料込)です。
- お支払(請求書到着後)は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方は申し出下さい。無料です。(見本紙にバックナンバーは含まれません)

全酪新報/
購読お申込
フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org

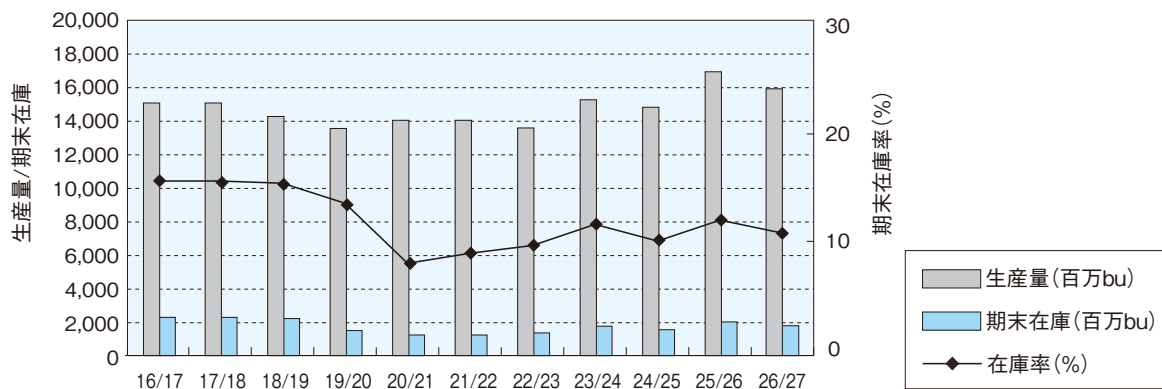


はない。
発生農場におけるまん延防止措置についても整理(表参照)、生産者においては、患畜等の速やかな隔離や、家畜防疫員の指示を受けての牛舎等の消毒などを義務付けている。
(7月10日号)

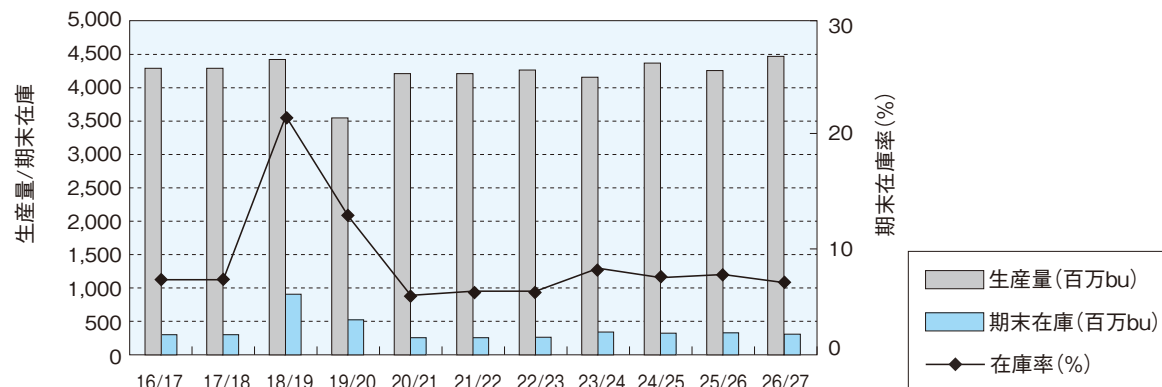


7月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		25/26年産	26/27年産
	作付面積(百万エーカー)	98.8	95.3
	単 収(ブッシェル/エーカー)	186.5	183.0
	生 産 量(ブッシェル)	186億	180億4,500万
	需 要 量(ブッシェル)	165億8,000万	162億5,500万
	期末在庫(ブッシェル)	20億2,000万	17億9,000万
	在 庫 率	12.18%	11.01%
トウモロコシ 相場動向	25/26年産は、供給量は据え置きとなった一方、飼料需要の増加により期末在庫は前月から減少した。26/27年産については、25/26年産の需要量修正に伴う期首在庫の減少に加え、輸出需要の増加を背景に、期末在庫は前月から減少した。世界需給は、アルゼンチンの生産量が上方修正された一方、EUの生産量は下方修正され、期末在庫も減少した。今後は米国中西部の高温・乾燥やロシアによる黒海航路の動向が注目されるものの、米国では降雨も予報されていることから、天候リスクは現時点で限定的とみられる。当面は需給の引き締まりを背景に相場は底堅く推移するものの、上値も限定的な展開が続く見通しである。		
大豆粕 相場動向	25/26年産は、供給量は据え置きとなった一方、輸出需要の増加により期末在庫は前月から減少した。26/27年産については、作付面積の上方修正に伴い生産量は増加したものの、25/26年産の需給修正に伴う期首在庫の減少に加え、輸出需要の増加が相殺し、期末在庫は前月比据え置きとなった。世界の大豆期末在庫は市場予想を下回り、中国向け輸出も堅調であることから、相場を支える要因となっている。今後は米国の天候が焦点となるが、現時点では、シカゴ定期は堅調に推移しており、為替円安の影響も重なり大豆粕価格は前期比対比で大幅な値上げとなっている。		
槽糠類	【一般フスマ】 小麦粉の輸出停滞に伴うふすま発生量の減少に加え、歩留まりの低下も重なり、需給は引き締まっている。当面は供給不足が続く見込みであり、受渡についても厳しい状況が継続すると見込まれる。		
	【グルテンフィード】 グルテンフィード～輸入品も一定量入船しており、国産在庫も潤沢であることから、直近の受渡に大きな支障はない見込みである。今後の配合割合の動向には注視が必要であるものの、足元の在庫水準を踏まえると、当面は安定した供給が継続すると見込まれる。		
海上運賃	7月に入り一時横ばいで推移したものの、その後は反発し、強含みで推移している。ホルムズ海峡の通航量は徐々に回復している一方、イラン情勢を背景とした原油価格の上昇によりバンカー価格は再び上昇した。また、中国における石炭輸入の増加期待や大豆買付を背景にバナマックス備船料も堅調に推移しており、海上運賃を下支えしている。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



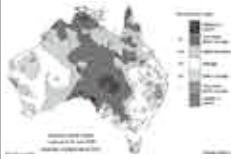
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和8年7月

海運情勢	シンガポールや釜山などの主要積替港ではコンテナ滞留や港湾の混雑が継続しており、アジア域内の海上輸送環境は依然として不安定な状況が続いています。特に釜山港では、コンテナ滞留の影響により接続船への積み替えに時間を要しており、スケジュール遅延やリードタイムの長期化が常態化しています。こうした状況を受け、一部船社では臨時船の投入など、輸送遅延の改善に向けた対応が進められています。ホルムズ海峡の通航は、中東情勢において緊張緩和に向けた動きが見られたため徐々に正常化しつつあります。しかしながら、安全対策、海上輸送保険料の設定や通関関連費用などは依然として不透明感が残っており、今後も海上輸送コストへの影響には注意が必要な状況となっています。国内では、那覇港において貨物の集中や台風7号の影響により一時休止されていたONE社の空コンテナ返却受入が、6月29日より再開されました。一方で、国内の港湾混雑や内航船遅延による影響は継続しており、海上輸送スケジュールには引き続き注意が必要な状況となっています。総じて、海上輸送を取り巻く環境に大きな改善は見られず、港湾混雑や地政学的リスクを背景として、輸送コストの上昇やリードタイムの長期化が継続しています。	
米国産 ビートパルプ	25年産の米国産ビートパルプは、米国内向けに加え、ヨーロッパ、メキシコ、日本など輸出向け需要が非常に旺盛となっています。一方で、生産量は前年を下回っていたことから、産地では既に完売となっており、追加買付けが困難な状況になっております。米国内では、酪農・畜産用途に加え、犬や馬向け等のペットフード需要も拡大しており、需給は一段と引き締まっています。このような背景から、25年産の価格は24年産を上回る水準で推移しています。また、エジプト産をはじめとする他産地のビートパルプも価格が上昇していることから、米国産ビートパルプ相場は引き続き底堅い展開となっています。一方、産地では26年産ビート（甜菜）の作付けが終了しています。ビートパルプ相場の本格的な生産は秋以降となる見込みですが、25年産が完売している影響から、米国内向け、ヨーロッパ向けともに26年産の早期契約が進み始めています。さらに、牧草やその他の飼料副産物価格も上昇基調にあることから、26年産ビートパルプ相場の価格は既に25年産を上回る高値で提示されており、今後も強含みで推移する可能性があります。今後の生産状況や需給動向によっては、さらなる価格上昇も懸念されるため、引き続き産地動向を注視する必要があります。	
アルファルファ	【PNW（ワシントン州・オレゴン州）】 ワシントン州コロンビアベースンでは、26年産アルファルファの1番刈りが終了しました。収穫期間中に数回の降雨があった影響により、全体の約30～40%の圃場で雨当たりや降雨を避けるための刈り遅れが発生しました。一方で、輸出向けの品質は概ね平年並みを維持しています。今年は米国全域が干ばつの影響により粗飼料が不足しており、米国内向けでアルファルファの引き合いが強まっていることから、産地価格は前年を上回る水準で推移しています。現在は2番刈りの収穫が順次開始されていますが、7月上旬は気温の低下が予想されており、生育および収穫は例年よりやや遅れる見込みです。オレゴン州クラマフォールズでは、26年産1番刈りが間もなく終了する見込みです。大きな降雨被害は確認されており、品質は概ね良好な状況となっています。しかしながら、ワシントン州と同様に、干ばつを背景とした米国全域からの旺盛な需要があり、産地価格は前年を上回る水準で推移しています。 【PSW（カリフォルニア州）】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーのアルファルファは4番刈りまで概ね終了し、5番刈りの収穫も始まっています。今シーズンは生育が順調で、品質は総じて良好です。一方、今後は気温の上昇に伴い成分値の低下が見込まれ、低級品の発生が増加すると予想されています。6月15日時点の作付面積は157,332エーカーと、前年同期比108%まで拡大しています。需要面では、米国全域の干ばつによる供給不足を背景に、例年は需要が限定的な低級品についても米国内からの堅調な引き合いが続いています。さらに、中東や中国向けの輸出需要も旺盛であることから、輸出向け価格は前年を上回る水準で推移する見込みです。国内外ともに需要が強く、2026年産アルファルファ相場は引き続き高値基調で推移するとみられ、今後の作柄や需給動向に注目が集まっています。	 アメリカ合衆国の干ばつモニター (色が濃いほど乾燥度合いが強い) 2025年時と2026年時の比較 出典：U.S. Drought Monitor
米国産 チモシー	ワシントン州では、26年産チモシーの1番刈りが概ね終了しました。前年と比べて作付面積が増加したことから、全体の供給量は前年を上回る見込みです。過去2年間は収穫期の天候に恵まれ、上級品を中心とした収穫となりましたが、今年は収穫期間中の天候が不安定だったため、幅広いグレードのチモシーが発生しています。特に、馬向けとなる最上級グレードの発生量は前年を下回る見込みであることから、酪農向け上級品への引き合いが強まっています。一方で、#1～#2グレードを中心とした低級品は発生量が増加する見込みであり、グレード間で需給に差が生じるとみられます。	 ◀ 26年6月下旬撮影 エレンスバークの チモシー1番刈り の収穫後
カナダ産 チモシー	【レスブリッジ】 5月は降水量が少なかったものの、その後は適度な降雨に恵まれたことから、チモシーの生育は概ね順調に推移しています。1番刈りは例年並みの時期に開始される見込みで、現時点では収量・品質ともに良好な見通しです。 【クレモナ】 5月は記録的な少雨となり、地域全体で深刻な水分不足が続いています。その影響から、チモシーの生育は平年より遅れており、干ばつによるストレスも確認され始めています。地域によって生育状況にはばらつきがあり、特に北部では乾燥の影響が大きく、一部の圃場では生育不良も確認されています。	
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、26年産スーダングラスの1番刈りが終盤を迎えており、収穫の中心はスタンダードカラーの上中級品となっています。まもなく2番刈りの収穫が開始される見込みですが、前号でもお伝えしたとおり、中東情勢の悪化に伴う燃料費・肥料費の高騰に加え、産地価格の低迷や日本向け需要の減少を背景に、2番刈りまで収穫を行う圃場は限定的になる見込みです。産地価格は現時点でまだ形成されておらず、前年から大きな変動はないとの見方が示されています。一方で、生産コストの上昇により生産農家の経営環境は依然として厳しく、生産農家からは価格の引き上げを求める声が強まっています。6月15日時点の作付面積は21,299エーカーで、前年同期比86%となっています。作付面積の減少に加え、2番刈りまで収穫を行う圃場も限られる見通しであることから、今後の生産量や需給動向が注目されます。	
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、26年産クレイグラスの1番刈りが終了しました。既に2番刈りも開始されており、今のところ品質は良好です。6月15日時点における作付面積は24,828エーカーで、前年同期比108%となっています。需要面では、日本向け需要が堅調に推移しています。これまで旺盛な買付けを行ってきた韓国向け需要にはやや一服感が見られるものの、相対的に価格競争力の高いクレイグラスに対する需要は引き続き堅調に推移する見通しです。一方、今年はDIP（休耕地政策、以下DIP）へ参加する圃場が前年より長期間にわたりDIPへ移行する圃場が増えることが予想されています。その影響により、市場向けの供給量は前年を下回る見込みであり、今後の需給動向が注目されます。	
ストロー類	ワシントン州では、26年産ライグラスストローの収穫が7月下旬頃から開始される予定です。産地在庫は韓国からの旺盛な需要を背景に低水準で推移しています。6月よりスペイン産粗飼料が韓国向け輸出再開されたものの、安価な繊維源として米国産ストローに対する需要は依然として底堅い状況です。現地在庫が少ないなかで新穀の買付が開始されるため、市場価格は引き続き底堅く推移する見通しです。	
豪州産 オートハイ・ ウィートストロー	生産地では26年産に向けた播種が6月に完了しました。播種前後の4月に各地域で降雨があり、5月末にも降雨に恵まれたことから、土壌水分は十分に確保されており、現時点では理想的な生育状況となっています。一方、海洋表面水温の変化を踏まえ、オーストラリア気象局は今後エルニーニョ現象が発生する可能性があるとして予想しています。エルニーニョが発生した場合、豪州東部では干ばつや農作物の生育不良が懸念されることから、今後の気象動向を注視する必要があります。需要面では、日本、韓国、中国など輸出向けは、年始の旺盛な需要からやや落ち着いた様子を見せています。これは、北米で26年産乾牧草の収穫が始まったことに加え、韓国向け欧州産粗飼料の輸出再開や、日本を含む各国で秋播き自給飼料の収穫が開始されたことが背景にあります。	 オーストラリア における降水量 分布図(2026年 1月～6月)
総括	米国では産地や品目によって需給に差が見られるものの、干ばつの影響により米国内での粗飼料の引き合いが強くなっており、価格は堅調に推移しています。一方、豪州では26年産の生育は順調に進んでいるものの、今後はエルニーニョ現象による気象リスクが懸念されています。今後も米豪両産地の生育状況や需給動向が産地相場を大きく左右するとみられます。	

※粗飼料情勢の全文は弊会ホームページに掲載しています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新		旧		氏 名
■令和8年8月1日付異動発令				
総務部	総務・広報課長代理	大阪支所	酪農課長	鈴木 悠 夏
仙台支所	総務課長 兼 指導組織課長代理	酪農部	酪農企画課	朴 眩 鳳
仙台支所	購買畜産課長	東京支所	購買畜産課長	木 戸 康 成
東京支所	購買畜産課長	大阪支所	購買畜産課長	瀧 本 慎 也
大阪支所	次長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	福岡支所	次長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	高 橋 信 一
大阪支所	購買畜産課長	仙台支所	購買畜産課長	鈴木 孝 明
大阪支所	業務課長代理	札幌支所	購買推進課	吉 永 顕 子
福岡支所	次長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	総務部	総務・広報課長	松 本 千 穂
北福岡工場	総務課長	購買生産指導部付外向	全国酪農飼料(株) 鳥栖工場 兼 九州支店	長谷川 和 典
購買生産指導部付外向 (株)日本ミルクプレイサー 工場長代理		仙台支所	次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	中 嶋 仁
■令和8年8月1日付昇進発令				
総務部	人事室 課長代理	総務部	人事室	河 野 と も 江
福岡支所	酪農課長代理 兼 指導組織課	福岡支所	指導組織課 兼 酪農課	馬 場 祐 生
■令和8年8月1日付兼務発令				
総務部長 兼 総務・広報課長		総務部長		飯 島 洋 一
仙台支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長		仙台支所長		渡 邊 和 典
■令和8年8月1日付兼務解除発令				
大阪支所長		大阪支所長 兼 指導組織課長		蒲 田 泰 介
北福岡工場 次長		北福岡工場 次長 兼 総務課長		松 本 悟



乳牛産地情報

令和8年8月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	札幌管内における7月中旬までの生乳生産量の前年比は、函館管内が月計94.2%、累計94.1%、苫小牧管内が月計96.3%、累計95.1%となっております。8月に出回る初妊牛は、10月下旬から11月中旬に分娩予定の牛が中心となります。出回り資源が豊富である一方、道内外から一定の需要が見込まれることから、相場は横ばいで推移する見込みです。腹別では、雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢な資源を確保できる状況です。高能力・高成績牛を多く取り扱う地域であるため、相場が落ち着いているこの時期の導入をおすすめいたします。
	初妊牛	53~63	→	
	経産牛	45~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	根釧管内における7月中旬までの生乳生産量の前年比は、釧路管内が月計98.9%、累計98.4%、中標津管内が月計99.6%、累計98.9%となっております。8月に出回る初妊牛は、10月下旬から11月中旬に分娩予定の牛が中心となります。暑熱による輸送リスクを避けるため、導入意欲は低い状況にあるものの、暑さが落ち着く秋に分娩を迎える牛の出回りとなることから、相場は横ばいで推移する見込みです。腹別では、F1腹、和牛受精卵移植腹、雌雄選別腹のいずれも、価格はやや堅調に推移する見込みです。経産牛については、即戦力となる牛が先月に引き続き高値で推移する見込みです。育成牛については、夏生まれの牛の出回りが増加しますが、道内外からの需要が強いことから、相場は横ばいで推移する見込みです。
	初妊牛	53~63	→	
	経産牛	45~55	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	帯広管内における7月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.5%、累計98.6%となっております。8月に出回る初妊牛は、10月下旬から11月中旬に分娩予定の牛が中心となります。例年と比較して導入需要が見込まれることから、相場は横ばいで推移する見込みです。腹別では、F1腹の出回りが多い一方、雌雄選別腹は少ない傾向にあります。経産牛については、即戦力となる牛に対して道内からの引き合いが見込まれます。暑熱による輸送リスクを懸念した買い控えも考えられますが、相場は当面、横ばいで推移する見込みです。育成牛については、夏分産となる月齢の牛が中心となりますが、後継牛資源としての需要は引き続き強いと予想されることから、相場は横ばいで推移する見込みです。
	初妊牛	53~63	→	
	経産牛	50~60	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	道北管内における7月中旬までの生乳生産量の前年比は、稚内管内が月計97.6%、累計98.7%、北見管内が月計101.0%、累計99.9%となっております。8月に出回る初妊牛は、10月下旬から11月中旬に分娩予定の牛が中心となります。一定の需要は見込まれるものの、夏の暑さによる影響もあることから、相場はやや弱含みで推移する見込みです。腹別では、雌雄選別腹とF1腹が同程度の出回りになると見込まれます。経産牛については、即戦力となることから道内での引き合いはあるものの、暑熱による輸送リスクもあるため、相場はやや弱含みで推移する見込みです。育成牛については、夏分産となる月齢の牛が多いことから、管内の需要は落ち着き、相場はやや弱含みで推移する見込みです。
	初妊牛	45~55	⇐	
	経産牛	30~40	↓	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~40	→	道内全体における7月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.2%、累計98.6%となっております。8月に出回る初妊牛は、10月下旬から11月中旬に分娩予定の牛が中心となります。道内の資源は比較的潤沢で、出回りが増える時期を迎えております。暑さが厳しくなることから、暑熱や輸送ストレスによるリスクを避けるために導入を控える動きもある一方、道内を中心に一定の導入需要が見込まれるため、相場は横ばいからやや弱含みで推移する見込みです。経産牛についても、即戦力となり得る産次数の少ない牛は特に引き合いが強く、相場は横ばいで推移する見込みです。酷暑が続く時期となりますので、牛の暑熱対策はもちろんのこと、皆様におかれましては、くれぐれも体調にお気を付けください。
	初妊牛	53~63	→	
	経産牛	45~55	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第16回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「ここは美術館!」(岡山県 筒井智子氏 撮影)です。

お詫びと訂正

本紙7月号(No.730)20ページ「酪政連活動報告」4月22日の写真について、左側および中央の写真のキャプションが入れ替わっておりました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 左: 酪政会 森英介会長

中央: 森山裕 衆議院議員

<正> 左: 森山裕 衆議院議員

中央: 酪政会 森英介会長

森山裕
衆議院議員酪政会
森英介
会長

令和8年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.731

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



興味津々(きょうみしんしん)

内灘町立内灘中学校 3年(中部) 堀臯月

今月の入賞作品は…

内灘町立内灘中学校 3年(中部)の堀臯月さんの作品です。

牛さんのお顔をじっくりと観察して、リアルさを追求した作品です。絵の具のかすれ具合で毛並みの柔らかさを表現したり、精巧な目の描写に対して意図的な文字のぼかしを施したり、大人顔負けの技術力で素晴らしい作品です。歴代トップクラスの完成度です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第52回らくのうこどもギャラリー」で全国209点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議